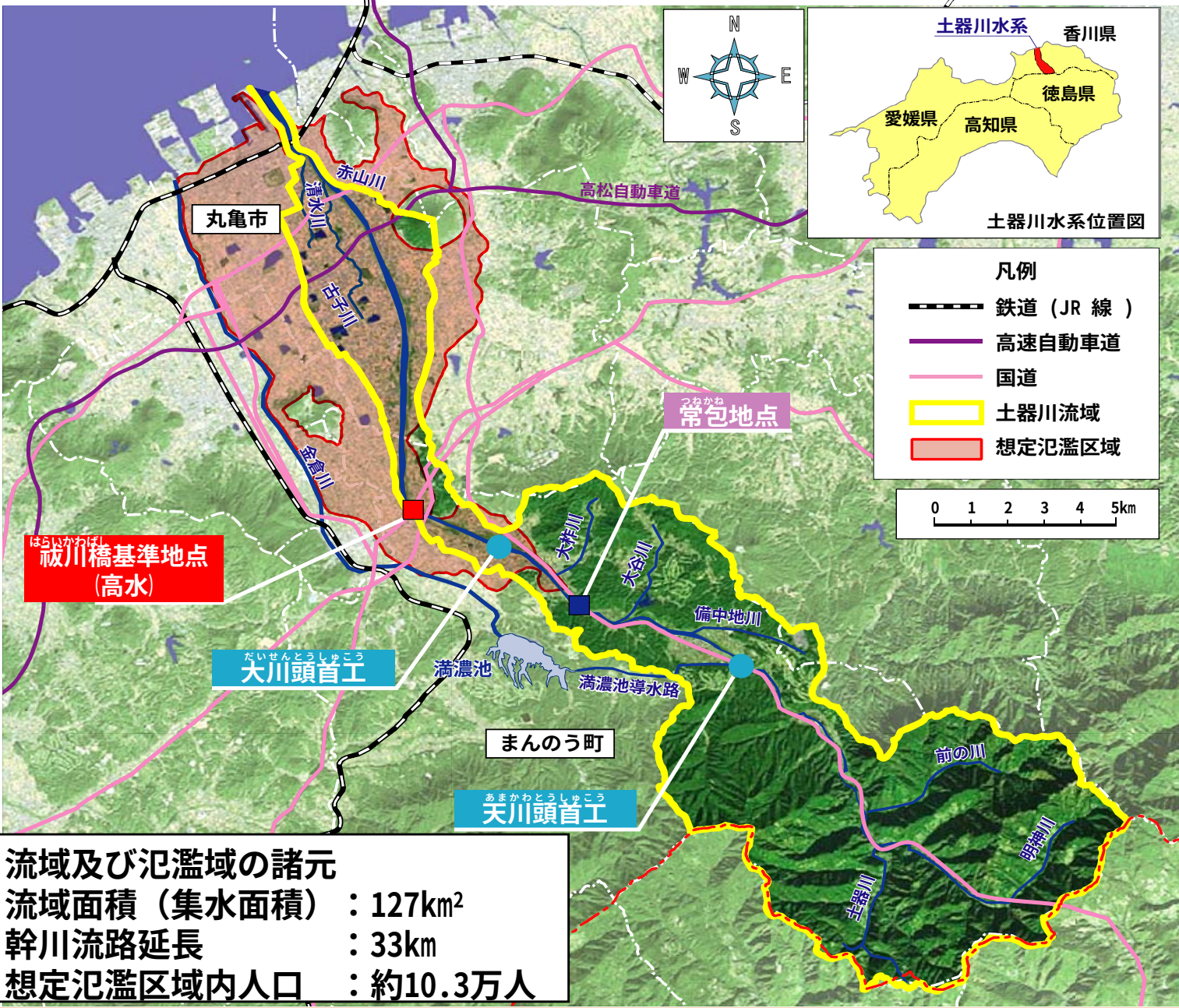


土器川水系河川整備基本方針の概要

流域及び河川の概要

- 河床勾配は下流部でも1/100～1/400程度であり有数の急流河川
- 常包地点より下流は扇状地が形成されており、一度氾濫すると拡散型氾濫となり、香川県第二の都市丸亀市街地全域に被害が及ぶ
- 年平均降水量は約1,200mm（全国平均約1,700mm）と少なく、出水など水量が乏しい地域特性に応じた取水形態が古くから行われ、下流では瀬切れが頻発している

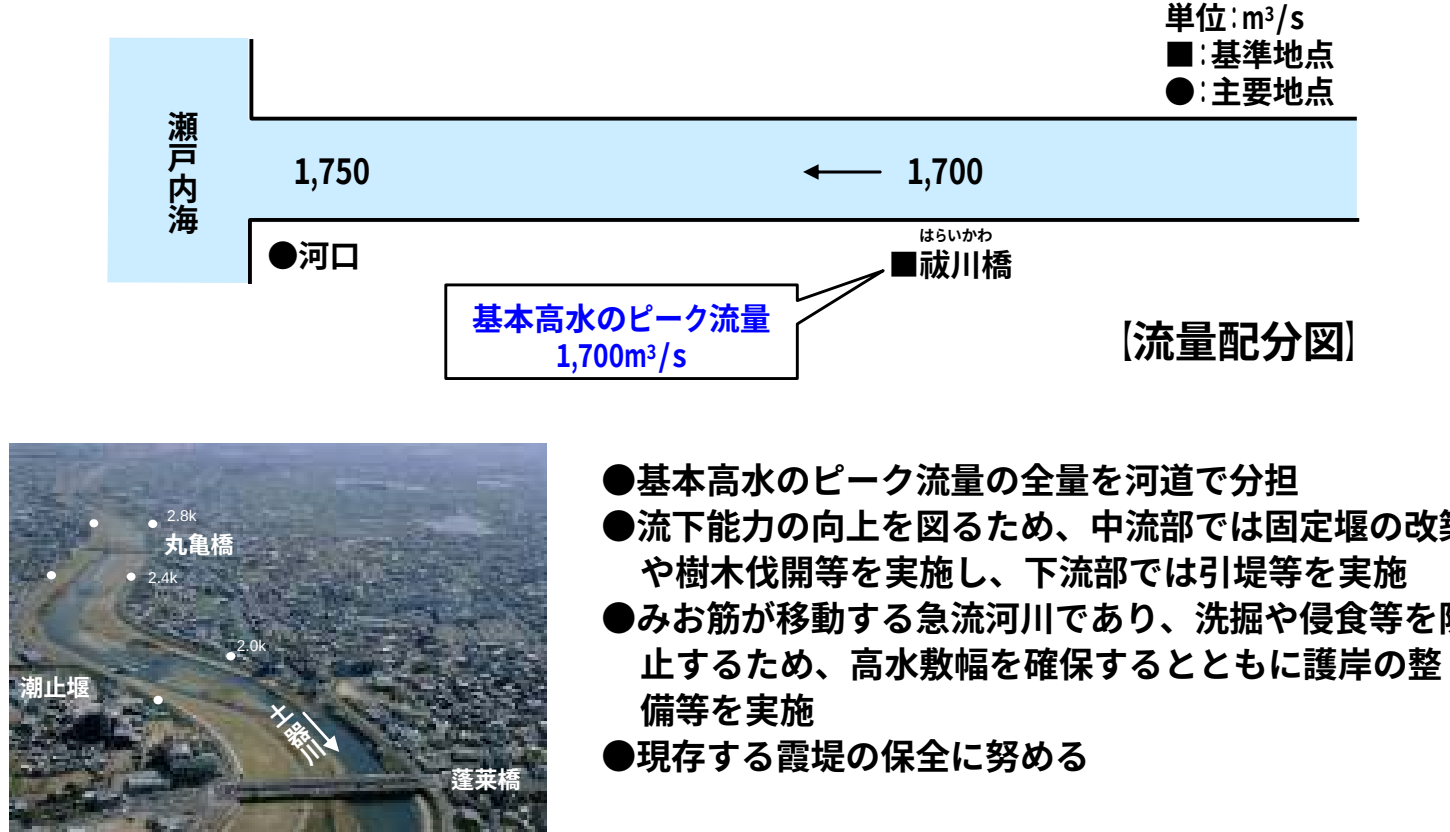


河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

- 流水の正常な機能を維持するために必要な流量については、瀬切れの発生や独特な取水形態により定常的な取水となっていないことなどから、今後、河川及び流域における諸調査を踏まえ、流水が伏流している河川の特性和動植物の生息・生育に必要な流量との関係を把握するとともに、関係機関と連携し水利用の実態を把握した上で決定するものとする

災害の発生の防止又は軽減

- 工事実施基本計画策定後に計画を変更するような出水は発生しておらず、流量データによる確率からの検証、既往洪水からの検証等により、基本方針においても既定計画と同様に基本高水のピーク流量を基準地点祓川橋で1,700m³/sと設定



河川環境の整備と保全

- 河畔林に囲まれ多様な環境が形成されている中流部では、河道掘削にあたって河畔林を一部存置等し水辺環境の保全に努める
- 河川水が伏流し瀬切れがみられる下流部では、ミゾコウジュ等がみられ、河道掘削にあたって既存のみお筋の保全や礫河原の変動に影響を及ぼさないよう配慮する
- 流域でのため池や出水と本川を結ぶ支川や農業用水路等の水路ネットワークの連続性を確保し、魚類の生息環境の維持に努める

